

もの言う牧師のエッセー 第298話

「美少女コンテストにて」

オスカープロモーション主催のオーディション「第15回全日本国民的美少女コンテスト」が行なわれ、京都府の13歳の中学2年生、井本彩花さんがグランプリに輝いた。表彰式には人気女優の上戸彩さんがプレゼンターとして登場。しかし、井本さんは感動のあまり涙目で表情がくしゃくしゃになり、混乱状態に陥ってしまった。現場にいた記者は振り返る。

「この状態に舞台左側でカメラを構えていた記者、カメラマン達は困りました。プレゼンターたちは舞台右から登場して受賞者の女の子たちに表彰状やトロフィーなどを渡すため、我々の側からはプレゼンターは撮影できても、受賞者の表情を写すことができない。受賞者の背中ばかり撮影する状態でした。」とその時、それに気付いた上戸さんは、「トロフィーを井本さんに渡した後、我々のいる取材エリアに視線を向け、井本さんの耳元で囁き、『ほら、あっちを向いて。カメラマンたちがあそこにいるから』と促してくれたように見えた。おかげで上戸との2ショットが撮れ、本当に助かりました」。

とは言え、井本さんの表情はまだ硬かった。すると、上戸さんは再び「井本さんの顔に自分の顔を寄せると、カメラマンたちを指さし、さらに手を振り始めました。すると、井本さんもぎこちない笑顔と共に手を振り始めた。おそらく上戸が『あっちを向いて笑顔で手を振ってごらん』と促したのだと思います。この日のプレゼンターは、真矢みき、佐藤藍子、武井咲、剛力彩芽や過去の受賞者などの顔ぶれでしたが、我々メディアにも関心を向けてくれたのは上戸だけでした」。彼女の思いやりある振る舞いは100人を超す報道陣を唸らせ、混乱する一人の少女を救った。

実は上戸さんも1998年に11歳で、同コンテストでの受賞を機にデビューしたが、以来睡眠2時間の激務が続き、若い時はストレスをため、マネージャーともめたり、また、“美少女”という固定観念が先行し“低視聴率の女王”と叩かれたこともあった。今や名実共にトップスターとなり、結婚し、子供もできた彼女の品性は、斯様な苦難を乗り越え身につけたものと言える。 聖書には、

「自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい。」

ピリピ人への手紙2章4節、

とあるが、それがキリストを信じたからと言って、一朝一夕になるものではない。神が下さるステージを一つひとつこなして手に入れるものだ。泣き出したい時や、パニックになることもあろう。しかしイエスはそんな我らにいつも寄り添い、励まして下さる。やがて我らが大ステージに立つために。 2017-9-2

